

## 【6 小城市 Ogi City】



天山の山頂から(佐賀平野越しに)

小城市では、市の南側に広がる有明海の干潟をはじめ、中部にある牛尾山の牛尾梅林や宝満山、八丁グリーンパーク、妙見山、市の北部に連なる筑紫山地の天山、彦岳などから、佐賀平野・有明海越しに“[北面の雲仙岳](#)”が眺望できます。

天山県立自然公園に指定されている天山と彦岳は、山頂から東西南北の展望が楽しめます。特に空気が澄んだ日には山頂から阿蘇山も眺望でき、[阿蘇山と雲仙岳](#)の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。実はこの天山山頂には、阿蘇神社の大宮司家の阿蘇惟直のお墓が建っています。中世の室町時代前夜、後醍醐天皇に反旗を翻した足利尊氏は、新田義貞・楠木正成らに敗れて九州へ一旦逃避しましたが、これを迎え討ったのが肥後の菊池氏や阿蘇惟直らの宮方軍でした。宮方軍は多々良浜(現・福岡市)で足利軍を迎え討ったものの敗れ、阿蘇惟直は天山山中に敗走しましたが、小城領主の千葉氏に追撃されて負傷し、自害しました。本人の“[阿蘇山の煙が見えるところに葬ってほしい](#)”との遺言に従って、天山山頂に葬られたと伝えられています。

彦岳の南麓斜面には、日本の棚田百選に選定された“江里山の棚田”が広がっており、秋には多くの彼岸花に彩られた棚田から雲仙岳の景観が楽しめます。この江里山の棚田を流れる水は、やがて嘉瀬川水系の祇園川へと流れこみます。祇園川の支流のひとつで江里山の東隣の谷を流れる清水(きよみず)川は、名水百選に選ばれ、最上流域には高さ75mの“清水の滝”がかかっていますが、滝の手前の高台からは有明海越しの雲仙岳が眺められます。滝下流の川沿いには、名水を活用した名物の鯉料理のお店が並んでおり、店内からも雲仙岳を望むことができます。この清水川～祇園川の豊富な名水が育んだ“小城羊羹”は、清水の滝の脇に鎮座する清水観音に参拝する際のお土産として流行・定着し、小城名物となっていくとも言われています。また、清水川が祇園川に流入する地点付近には、鎌倉時代～戦国時代の小城領主・千葉氏の居城があったとされ、その跡に整備された千葉公園の展望台からも、雲仙岳が眺望できます。

本市南端の芦刈にある海遊ふれあいパークでは、有明海の干潟の体験や、動き回るムツゴロウ(↓)の観察ができますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を六角川や嘉瀬川、筑後川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、小城市内を旅してみませんか？

- 小城市の観光情報はこちら ⇒ 小城市観光協会 <http://www.ogi-kankou.com/>



干潟を動き回るムツゴロウ